

事業計画書

団体名	しろいしプロジェクト
代表者役職・氏名	代表 永井京花
会員数	5名
団体の目的	文化・芸術への活動を通じて、生産から消費までの多様なコミュニティを作ること、白石の産業の経営と生活を守ることを目的とする。
事業申請回数	1回目(過去の申請年度:)
事業名	アーティスト・イン・レジデンス事業～アートを日常に～
まちづくり宣言 ※1	A-7 城下町白石としての風情・伝統・文化と、きれいな水・美しい自然を守りながら、活気あふれる魅力的なまちにしていきます。
現状の課題と 事業目的	自然に恵まれており、歴史的文化が高い白石市。新型コロナウイルスによって、人の行き来が劇的に減り、インバウンドはおろか、国内の観光客まで激減し、街の活気はすっかり失われてしまいました。改めて「観光」と言うものを見つめ直したとき、その地域に住む人が、地域の良さに気づき、それを大事にしていく。そんな「ここに住んでいる心地よさ」が色んな人にゆっくりと伝わり、結果として賑わいを創っていくものだと思います。これを満たす事業を考えた時に「アーティスト・イン・レジデンス」が生まれました。そうした背景から、出来るだけアーティストと地域の住民が自然発生的に接し、アーティストとの会話の中で何かに気付くこと。子供たちがレジデンスに立ち寄って、アーティストの経験を共有し、視野を広げて行くこと。このような「地域とのコミュニケーション」と「制作プロセスの共有」に重点を置き、地域のアイデンティティを高めて行く事を狙いとしています。さらに、成果展にあわせて、地域の持っている魅力に対する興味のきっかけづくりと可能性を探る機会を提供していきます。
事業内容	① 地域内の住民と連携したアートワークの実施 場所：白石中学校裏のアーティスト・イン・レジデンス施設 (宮城県白石市南町1丁目2-68) 期間：6月20日～7月21日 内容： 蔵王町にあるアーティスト・イン・レジデンス「遠刈田レジデンスマルヨシ」に滞在したことで、子どもたちと共に作品制作したアー

ティストの高久柊馬氏。今回は、白石市に新たにできたレジデンス施設で、高久氏が遊びにきた地域内の住民や子ども達と交流を図りながら白石の資源である「白石和紙」を用いて己の表現方法でリサーチを基にした制作をしていく。その過程で白石和紙の特性や活かし方などを知ってもらう機会を設ける。

アートワーク例

- ・和紙を輪っか等の形状にし、立体の作品を子ども達と共に制作
- ・市内の高校に通っている美術部の生徒と共に粘土を取ってきて和紙にベンガラ染をする



② 壽丸屋敷での成果展

場所：壽丸屋敷

開催日：7月14日～7月21日（7月12, 13日搬入）（予定）

内容：

白石和紙の生産地である白石市内で展示を開催し、地域住民と共に制作した作品を白石市内の中心地にある壽丸屋敷にて展示する。

展示時にはサウンドアーティストを招き、作品が展示されている中でライブパフォーマンスを行い、集客とアートへの関心度を高めてもらう機会を設ける。

市民の方々に地域資源の素晴らしさを再認識し、今後の地域の可能性を探る機会を設けることを目的として開催する。

事業実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ・白石中学校裏のアーティスト・イン・レジデンス施設 宮城県白石市南町1丁目2-68 ・壽丸屋敷 宮城県白石市中町48-5
事業実施期間	2024年4月1日 ~ 2024年8月31日 (予定)
事業スケジュール	<p>アーティスト・イン・レジデンス滞在、作品制作 6月20日~7月21日</p> <p>壽丸屋敷での成果展 7月14日~7月21日 (7月12, 13日搬入)</p>
事業により期待できる効果	<p>展示会や芸術祭の様な「鑑賞すること」に主眼を置かず、「アーティストと友達になること」に主眼を置き、「アートが日常にあること」を目的とする。そのため、アートを通して地域内で多様な考えや気づきを醸成し、アーティストのリサーチを通して地域のアイデンティティを高められる。</p> <p>この地域住民のアイデンティティを高めることにより、地域住民自身が地域のことを好きになり、昔からあった伝統や生活様式を活用しながら、まちを発展していこうとする志しが、地域アイデンティティが人々に地域への誇りや愛着を持たせ、地域の人たちにとって共に生きがいのある生活空間を作り出すための様々な活動を促進する役割を果たすという期待がこめられる。</p>

※1別紙『第六次白石市総合計画地域別まちづくり宣言』一覧表から実現したい宣言の記号を記入してください。